

⑦ 王祇祭

○春日神社

82 2月1日、午前3時、  
春日神社に  
当屋の人々が集合、  
王祇祭が始まります。

83 神事後、  
氏神のよりしろ依代、王祇様が  
当屋の人々に  
渡されます。

○行列

84 王祇様を担いだ行列が  
春日神社を出発。  
上座、下座、それぞれの  
当屋へ向かいます。

	○当屋	85 当屋では頭人 <small>とうにん</small> が外で 王祇様を迎え入れます。
	○布着せ	86 王祇様が当座に着くと 春日神社の神職たちが 布をつけます。
	○下の王祇様	87 下座では 布を着せた王祇様を 縦にして置きます。
	○上の王祇様	88 しかし、上座では王祇様を 横にして吊るします。
	○能面を運ぶ	89 布つけが終わる頃、 下座の太夫、

	<p>○下座当屋</p> <p>○座狩り</p>	<p>上野さんの家では 能面を運ぶ準備が 進められていました。</p> <p>90 氏神の化身である能面は 当屋の使いによって 大切に運ばれます。</p> <p>91 続いて装束などの道具が 若衆たちによって 運び込まれます。 そして、<sup>ざがり</sup>座狩りが始まります</p> <p>92 氏子の出席を確認する <sup>ざがり</sup>座狩りでは、 すべて昔からの屋号で</p>
--	--------------------------	--

	○振舞い	<p>呼ばれます。</p> <p>93 座狩りが終わると 振舞いです。 裏方の女性たちは 忙しくなります。</p> <p>94 この時のご馳走が 豆腐焼きで焼いた あの豆腐です。</p> <p>95 下座では、 味付けしておいた 冷たい豆腐に 熱い汁をかけて食べます。</p> <p>96 一方、上座では、 直前にお味噌で</p>
--	------	---

	<p>○世帯持ち</p>	<p>味付けした熱い豆腐を 冷たい汁につけて 食べます。</p> <p>上座と下座では、 しきたりが違うのですね。</p> <p>97 当屋での様々な手配を すべて取り仕切るのが 経験豊富な世帯持ち<sup>せたいもち</sup>という 人々です。</p> <p>98 振る舞いは午後3時頃まで 続きます。</p>
	<p>○観客</p>	<p>99 夕方になると、 観客が続々と 上座・下座それぞれの当屋に 集まってきます。</p>
	<p>○大地踏・上</p>	

	<p>○大地踏・下</p> <p>○拍手</p> <p>○翁</p> <p>○所仏則翁</p>	<p>00 午後 6 時頃、</p> <p>黒川能の上演が開始します。</p> <p>最初は<sup>だいちふみ</sup>大地踏です。</p> <p>小さい子供が</p> <p>大地を踏みしめて</p> <p><sup>あくりょう</sup>悪霊を封じ</p> <p><sup>ちれい</sup>地霊を呼び覚ますという、</p> <p>王祇祭でのみ</p> <p>演じられる舞いです。</p> <p>01 両座ともに大地踏みを</p> <p>演じるのは男子ですが、</p> <p>下座の場合は、</p> <p>装束によって女子であることを表現しています。</p> <p>02 王祇祭では、</p> <p>上座と下座が</p>
--	---	---

	<p>男性と女性をたとえられて いるのです。</p> <p>03 次は式三番。 <small>しきさんば</small></p> <p>04 下座の太夫、 上野さんが演じるのは 公儀の翁です。</p> <p>05 一方、上座の翁は、 <small>ところぶっそくのおきな</small> 所伝則翁という 王祇祭でのみ演じられる ものです。 能になる以前の古い形を 残していると 言われています。</p> <p>06 また、下座の三番叟も、 <small>さんばそう</small> <small>ところぶっそくのさんばそう</small> 所伝則三番叟という</p>	
	○三番叟	
	○老松	
	○嵐山	

	<p>○暁の使い</p>	<p>王祇祭でのみ 演じられるものです。</p> <p>07 そしてメインの出し物、 <small>わきのう</small> 脇能です。 上座脇能は、<small>おいまつ</small> 老松でした。</p>
	<p>○楽屋</p>	<p>08 下座の脇能は<small>あらしやま</small> 嵐山。</p>
	<p>○中入り</p>	<p>09 夜も更けて、 上宴もたけなわの頃、 下座からの使者が上座に やって来ます。</p>
	<p>○巴</p>	<p>10 楽屋でも挨拶を交わします。</p> <p>11 その後、当屋の人々と</p>



	<p>○成田君</p> <p>○船弁慶</p>	<p>役者衆が食事をとる 休憩時間、中入りです。</p> <p>12 その時、観客にも 名物の<sup>とうやどうふ</sup>当屋豆腐が 配られます。</p> <p>13 そして、深夜に上演を 再開。 下座の<sup>にばんめもの</sup>二番目物「<sup>ともえ</sup>巴」 には、成田君が登場。</p> <p>14 笛は当屋の小林さんです。</p> <p>15 成田君、声がちょっと 小さいようですが、 緊張しているのかな？</p>
--	-------------------------	---



	<p>○能舞台</p> <p>○囃子方</p> <p>○脇能</p>	<p>春日神社へ向かう途中で、</p> <p>神社の前にある <small>さかきやしき</small> 榎屋敷と</p> <p>よばれる神職の家へ立ち寄り</p> <p>大地踏みを行います。</p> <p>20 そこに上座の使者がやって</p> <p>来ます。</p> <p>21 神社の参道では</p> <p><small>あさじんじょう</small> 朝尋常が行われます。</p> <p>王祇様を</p> <p>どちらが早く</p> <p>神社に担ぎ入れるか競う、</p> <p>その結果で</p> <p>その年の豊作を占う</p> <p>神事です。</p> <p>22 当屋の人々は</p> <p>王祇様の前に座って</p>
--	------------------------------------	---



	<p>○春日神社</p> <p>○道具渡し</p> <p>○墨付け</p> <p>○語らう人々</p>	<p>26 翌日。</p> <p>若衆たちが、</p> <p>次の当屋へ祭りの道具を</p> <p>運びます。</p> <p>27 世代から世代へ、</p> <p>連綿と受け継がれて行く</p> <p>伝統行事・王祇祭。</p> <p>黒川では</p> <p>お祭りを通して</p> <p>人々に活力が生まれて</p> <p>います。</p> <p>28 地域の絆が</p> <p>しっかりと</p> <p>息づいています。</p>
--	---	--

	<p>○稽古風景</p> <p>○月山と赤川</p>	<p>そして、</p> <p>なによりも</p> <p>先祖代々続く家族と仲間の絆を</p> <p>大切にしながら</p> <p>ふるさとに生きる</p> <p>真摯な人々の姿があります。</p>
--	----------------------------	--